

# vol. 10

# KITA-NET NEWS 2021/01

## きたネット

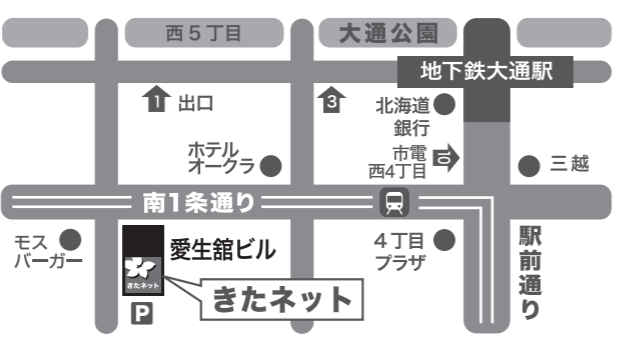
きたネットWeb <http://www.kitanet.org/>  
 きたマップ <http://kitamap.net>  
 環境情報Blog <http://blog.go.ne.jp/kitanet-staff>  
 きたネットFacebook <https://www.facebook.com/kitanet.org>  
 ライブニュース・クレーンツツツ北海道 <http://www.live-earth-hokkaido.jp>

- きたネット賛助会員 / 北海道の環境活動を支援する企業・団体**
- 公益財団法人秋山記念生命科学振興財団 / 網走市廃棄物処理協同組合 / 株式会社櫻井千田 / 公益財団法人知床自然大学院大学設立財団 / 親切会北海道支部 / 株式会社地域環境計画北海道支社 / DCMホームマック株式会社 / 株式会社トゥリー / バタゴニア札幌北・バタゴニアアウトレット札幌南 / 株式会社プリプレス・センター / 公益財団法人北海道新聞野生生物基金 / 一般財団法人前田一歩園財団 / 雪印種苗株式会社 /
- きたネットの活動にご協賛をいただきました。ありがとうございます。**
- 公益財団法人日本賃貸住宅管理協会 北海道ブロック / 公益社団法人全国賃貸住宅経営者協会 北海道支部 / 全国賃貸管理ビジネス協会 北海道支部 / 株式会社北翔 / 石上車輛株式会社 / 一般社団法人札幌空調衛生工事業協会 / 株式会社 櫻井千田 / 北海道中央バス株式会社 / 山本建設株式会社 / 札建工業株式会社 / しらいトランク・サポート株式会社 / NPO法人大雪山自然学校 / フォレストクリエイトタック(TACK) / DCMホームマック株式会社 / 株式会社宮北都市開発 / 株式会社宅建 / 株式会社セクト / アースデイ道南 / 公益社団法人全日本不動産協会 北海道本部 / コープさっぽろ組合員活動委員会 / 神保順子 (個人)

**【NPO法人 北海道市民環境ネットワーク事務局】**  
 〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目8 愛生館ビル5F  
 Tel 011-215-0148  
 Fax 011-215-0149  
 E-mail [office@kitanet.org](mailto:office@kitanet.org)

一般財団法人  
セブン-イレブン記念財団

きたネットは、一般財団法人セブン-イレブン記念財団から助成を受け、市民の環境活動を支援する「市民環境活動支援協定」を結び、北海道の自然環境を子どもたちの未来へ引き継ぐために活動を行っています。



**NPO法人 北海道市民環境ネットワーク「きたネット」**

北海道の環境保全活動を推進・支援する団体・個人・企業が参加するネットワークです。

# MESSAGE

## 2021年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の先が見えない状況下、2021年がはじまりました。コロナ渦によって新たに生まれた社会問題もありますが、気候変動、格差、貧困など、すでに大きな問題になっていたことが、顕在化しています。新しい年は、私たちができることを見つめ直し、このような状況下でも機能する指針と仕組みを形にし、実践して行く年になります。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



### 福祉、医療などとの連携は、自然に関わるものの役割のひとつ

きたネット理事  
**鈴木 玲** (手稲さと川探検隊、石狩川流域 湿地・水辺・海岸ネットワーク)

幼少期から中学生まで、小樽市朝里で海や川や森で遊んで育ち、大学時代はワンダーフォーゲル部と林学科で山や原野を駆け巡り、就職後も自然の中に分け入り、30代で心を病んだ時は森が癒しの空間であり、子どもと過ごす場でした。そんな大切な自然との付き合いを多くの親子にも体験してもらいたくて、2004年に「手稲さと川探検隊」を立ち上げ、都市環境の中での身近な自然体験の場を、主に自分たちが楽しめる活動として始めました。

東日本大震災の後、防潮堤や海岸林造成によって壊滅的に壊されることになった海辺の生態系を守る活動を始め、2017年からは地元地域の湿地を残したくて「石狩川流域湿地・水辺・海岸ネットワーク(しめっちネット)」を立ち上げて中間支援もしています。海辺や湿地の自然環境は貴重で大切で美味しく楽しいのに、それを私たち知っている人間が多くの人に伝えてこなかったから、たくさん海辺や湿地の自然環境がみるみるうちに消え去りました。自らの認識と力の不足が悔やまれました。もっと多くの人に伝え、連携して

いかなくはいけない!そう思いました。

現地に張り付いて真剣に保全活動等に取り組む団体は、どうしても多くの人に活動の大切さ・楽しさを伝えることや地域の環境以外の団体と連携する余裕やノウハウが不足します。中間支援組織がカバーし、団体同士の情報共有を進める必要があると考えています。

SDGsのウエディングケーキモデルにあるように、自然環境をベースにして社会も経済も存立しているものの、「自然環境を守ろう」だけでは連携し難い。他の社会課題解決や文化振興を進める団体や観光などの地域経済と手を携えて、まちづくりの一部として地域の自然を守り、利活用していくという視点で連携を進められればと思いついて活動しています。そして自然環境を守っていくために欠かせないのは、社会の生産的な活動の表舞台にいない福祉・医療などとの連携だと思えます。私が体験したように、自然環境は心の健康や生きることに直接つながっていますから、連携は自然に関わるものの役割のひとつです。

また、きたネットでは、北海道胆振東部地震の被災地である厚真町での森づくりを始めました。自然環境をグリーンインフラと捉える動きもあります。SDGsの風を受けながら、他分野と連携して自然環境を守り育てて行きましょう。

# INFORMATION

12月6日、きたネットフォーラム「人と野生生物の距離2 接近NO!餌付けNO!! 人がつくる新たな環境リスク」がオンライン開催で無事終了しました。

2019年に取り上げた感染症の問題が現実となってしまった一方、人の暮らしと野生生物の住み分けが崩れ危険な接触が生じています。基調講演の齊藤慶輔獣医師、知床財団の石名坂豪氏ほか、登壇者のみなさんご協力をいただき、ともに取り組み次の一歩を踏み出すきっかけとなる、内容の濃いフォーラムとなったと自負しております。ぜひご覧ください。(有料配信) 視聴申し込みページ <https://kitanetforum2020rokuga.peatix.com>



きたネットフォーラム 録画配信開始



## 助成制度や最新の資金調達法を1日で知るチャンス

[2020.10.4 市民活動助成セミナー 2020]

環境市民活動助成金セミナー「NPOの資金調達まるわかりセミナー」を昨年につづき、NPO法人エコネット近畿(大阪)、NPO法人地域の未来・志援センター(愛知)と共同で開催しました。ZOOM会議システムを使って3地域を結ぶオンラインイベントとして開催したところ、全国から合計163名、たくさんの方に参加いただきました。

きたネットは、北海道自治労会館を会場に、北海道の助成団体の助成制度の説明会を開催、その様子をオンラインでも配信しました。

第1部は3つの講座をおこないました。「助成金申請書の書き方講座」では、申請書のつくりかたのポイントや書き方についての注意点など、具体的にお話しいただきました。「新型コロナ 資金繰り支援制度」や「フィールドの遺贈寄付」の講座には、中間支援施設で働く方が多く参加されていました。

第2部は地域限定の助成制度(北海道は3団体4制度)、第3部は全国対象の助成制度(7団体)の説明がありました。新型コロナウイルスの影響を受ける活動団体の為に、助成金の制度を一部変更したという助成団体もありました。

第4部のグループ質問会では助成制度説明の内容をもとに、具体的に活動内容と助成制度のマッチングや申請方法について相談をすすめるよう、オンライン5回線を使い全国や地域の助成団体の担当者と参加者が交流できる場にしました。

北海道では会場で各助成団体の担当者個別相談会を実施。熱心な情報交換が行われていました。終了後のアンケートでは「自分たちの活動は制度に該当しないかもしれないと考えていたが、せっかくの機会なので相談してみると、該当することがわかった。これからは申請準備をすすめたい」という声もありました。

オンラインと会場の同時開催という、きたネットとしても新しい試み。配信成功までの緊張感と同時進行の難しさを体感しました。参加者のみなさまのご協力により無事終了することができました。

### 【ご登録いただいた助成団体】

一般財団法人前田一歩園財団 / 公益財団法人北海道新聞野生生物基金 / 公益財団法人北海道環境財団 / 公益財団法人河川財団 / 独立行政法人環境再生保全機構 / 公益財団法人コメリ緑育成財団 / 一般財団法人セブン-イレブン記念財団 / 公益財団法人SOMPO環境財団 / TOTO 株式会社 / トヨタ自動車株式会社

## キレイな浜辺を取り戻そう! ごみ拾いビーチウォーク

[2020.9.20 ラブアース・クリーンアップin北海道]



毎年、環境デーに近い6月の第1日曜日に、石狩市の三線浜で実施しているごみ拾いビーチウォークですが、今年は新型コロナウイルスの影響で、9月20日に延期して実施しました。

感染予防の観点から、実施方法も変更し、参加者には10:00~12:00の間の都合のいい時間に来ていただき、1時間ほどごみを拾って帰っていただきました。開会式も閉会式もせずに淡々と海岸のごみを拾う作業でしたが、天気も良く、気持ちのいい活動になりました。

参加者数は196名と例年の3分の1でしたが、拾ったごみはトータル3300kgを超える量で、例年とそれほど変わらない量でした。

### ◆ごみ収集量

一般廃棄物/可燃ごみ: 900kg、燃えないごみ: 750kg  
燃やせないごみ: 750kg、粗大ごみ: 360kg  
処理困難物等/自動車部品: 150kg、魚網: 450kg、  
タイヤ: 9本、テレビ: 1台、洗濯機: 1台

参加者のみなさんや周辺で活動を知った人、そして後日海岸にごみがないことに気付いた人にも、海岸のごみ問題について考えてもらい、北海道の環境保全につなげる活動を実施しています。



## 白老町の森で 育樹活動と自然観察会

[2020.11.1 ラブアースの森づくり]

白老町の「ラブアースの森」の育樹活動では、樹の成長度合いや周囲とのバランスを考慮して除間伐と枝打ち作業を行っています。指導は土地を管理している「NPO法人ウヨロ環境トラスト」のみなさんをお願いしています。今回はトラストの森で、ミズナラの植樹も行い、森を創る作業も体験してもらいました。参加者はリピーターの方が多く、きたネット会員の「いしかり森林ボランティア『クマゲラ』」のベテランの方も参加され、作業はスムーズに終了しました。

昼食に、地元のキノコをふんだんに使ったきのこ汁とおでんをごちそうになり、作業の疲れも癒されました。

午後はウヨロ川のフットパスウォーキング。2時間ほどかけて川周辺の植物観察と森林浴を楽しみました。産卵のために競って川に上るサケを観察し、命をつなぐための自然界の壮さに圧倒させられました。



きたネット会員

## KITA-NET MEMBERS



## ストランディングネットワーク北海道

漂着した鯨類から海洋生態系を探る

鯨類(イルカ・クジラ)は、海洋生態系の頂点にいます。その生態を知るによって、人間が海洋生態系と共存することへの多くのヒントが得られます。

一般に、洋上での鯨類の捕獲・調査は極めて困難です。我々は、ストランディング(漂着、座礁、混獲等)した個体の調査を行い、取得した標本を多くの研究者に無条件で配分し、鯨類研究に貢献します。活動をはじめた2007年以来、少なくとも23種、約900個体の通報を受け、その半数以上について取得した標本を配分しました。例えば、2019年のクロツチクジラ新種認定は、我々の活動の大きな成果です。また、鯨類の胃から出現する海洋ゴミなど、今後取り組むべき課題も山積しています。鯨類研究への貢献はもとより、得られた研究成果をわかりやすく社会に還元したいと考えています。

今まで任意団体として活動してきましたが、活動の継続性と社会への貢献体制を確立するために、現在NPO法人申請を行っています。日本の一都道府県であるのみならず、豊かな海に囲まれ漁業が盛んな地球上唯一無二のバイオリージョンである北海道で、鯨類ストランディングに関する活動をするには、地球規模の意義があると考えています。

【電話】090-1380-2336 【HP】<https://kujira110.com/>



## 冷水峠森づくりの会

冷水峠の森林を自然と親しむ場とし、生産の場とする

小樽から車で40分。標高320mの冷水峠(仁木町)に広がる4ha足らずの森林が私たちの活動場所です。

森林を保有する(社福)札幌協働福祉会は福島の子どもたちを夏休み・冬休みに招く保養事業を2011年から始めました。この子どもたちが森の中で活動できる環境づくりをしようとして森づくりの活動も始まりました。彼らはここで、森林観察会やネイチャーゲーム、木工体験などを楽しみ、森に囲まれた環境の中で自然を満喫して過ごします。地元農家の皆さんや札幌からのボランティアなどが会の中心メンバーです。

冷水峠の森は、林齢50年前後のカラマツ人工林が大半で、植林できなかった急傾斜地に天然性広葉樹林が少し残っています。私たちが目指しているのは、①森林資源を自然と親しむ場として活用する②きのこや山菜採取、新生産など森林を生産の場にする③人工林を間伐しながら、自然林の再生を図ることです。

間伐して日当たりの良くなった場所に広葉樹の稚樹が育っているのを見つけるとテーピングで目印をつけ、間違えて切らないように笹刈りを行います。少しずつテープが増えていくことに手応えを感じています。間伐材の活用は薪の生産に主力を注いでいます。薪割りなどは障がい者事業所の利用者さんと作業してもらっています。

今後は地域住民との接点をもっと増やして、間伐材の利活用を新以外にも広げていきたいと考えています。

【電話】090-1300-8314 【HP】[node@mint.ocn.ne.jp](mailto:node@mint.ocn.ne.jp)

きたネットチョイス

## KITA-NET CHOISE



## 円山ZOOラジオ 次回は2/24(水)放送決定!!

円山Zooラジオは、円山動物園とイキモノ大好きな、きたネットのメンバーMOORINOKOチームが企画・制作、札幌のコミュニティ FM「ラジオカロスサッポロ」で不定期にお届けしているラジオプログラムです。円山動物園が取り組む種の保存や生物多様性の保全に寄与するさまざまな取り組みを紹介し、動物園をより楽しむための情報、見どころを伝えるとともに、動物園職員や各方面の専門家とともに考え、円山動物園の取り組みをサポートしていくために市民に何が出来るかを伝えます。また、地球規模で直面している、様々な環境問題や開発の問題と、身近な命とのつながりを考えるきっかけを提供しています。

パーソナリティーは、イラストレーター &ライター ETOBUN社のニオカカオリさんと、きたネット事務局の宮本尚。提供はさっぽろ円山動物園サポートクラブです。これまでの放送は、youtubeのアーカイブでお楽しみいただけます。



円山ZOOラジオyoutube <http://bit.ly/38litjQ>  
facebook <https://www.facebook.com/maruyamazooradio>  
twitter <https://twitter.com/mzooradio>

お推しします!

## ヒグマの会作成「ヒグマノート」

近年、ヒグマが人里や市街地にも出没するようになり、これまで以上に人とヒグマの距離感が縮まっています。ヒグマの会では、人とヒグマの適切な関係を築き、いつまでも北海道のシンボルとしてヒグマが生き続けることを願い、40周年記念事業の一環として、ヒグマの生態や安全対策についてわかりやすく解説した小冊子「ヒグマ・ノート〜ヒグマを知ろう〜」を出版しました。1冊300円で販売しています。小冊子入手希望の方はヒグマの会事務局までお問い合わせください。※きたネット事務局でも入手可能です。

お問合せ ヒグマの会 事務局(事務局長 佐藤喜和)  
e-mail [higmax7@gmail.com](mailto:higmax7@gmail.com)



●きたネットのネットワークに参加しませんか。会員は以下の2種類です。  
1. 正会員(市民環境活動団体・個人)年会費5,000円(1口)〜総会における議決権を有します。  
2. 1. 賛助会員(企業・団体)年会費10,000円(1口)〜総会における議決権は有りません。  
2. 2. 賛助会員(個人)年会費2,000円(1口)〜総会における議決権は有りません。  
●会員になると...各種連携事業の実施、広報協力、会員間の交流・活動発表の場の提供、イベント参加費等の会員料金適用、きたネットMLへの参加、各種環境情報の提供など。詳細は事務局にお問い合わせください。